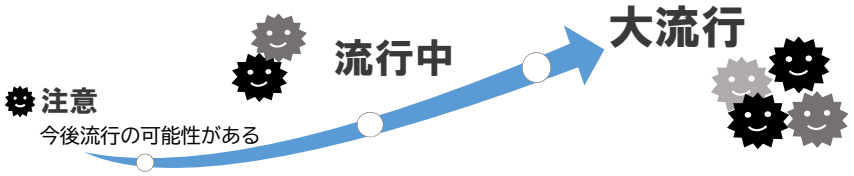
2025年
5月号
横浜市
衛生研究所

# 感染症に気をつけよう

## 今月の感染症流行状況

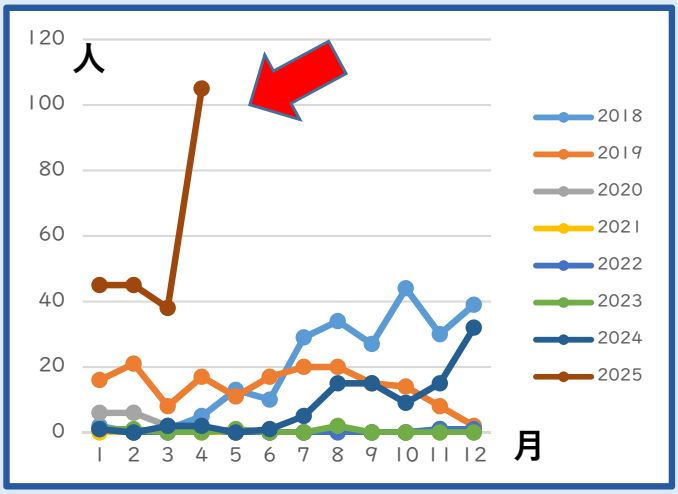



| 疾患名 | 流行状況 | 説明 |
|---|---|---|
| 感染性胃腸炎 | 流行中 | 3月のピークからは減少するも<br>患者数は多い状態が続く |
| 伝染性紅斑<br>（リンゴ病） | 流行中 | 患者数はやや減少するも<br>例年同時期に比べ患者数は多い |
| 百日咳 | 患者数急増 | 患者数の増加が依然として続く<br>10歳代が全体の62.2%を占める |
| 梅毒 | 流行中 | 20歳代～60歳代の幅広い年齢層<br>引き続き注意が必要 |

## 今月のトピック　百日咳が増えています！

百日咳は生後3か月未満の乳児では症状が重篤になることもあり、注意が必要な疾患です。

### 横浜市での百日咳の発生状況




4月27日まで

### 01 過去最多の水準

横浜市での発生状況は過去の同時期の発生状況と比較しても、いずれの年よりも高い水準で患者が多くなっています。

### 02 ワクチン接種で予防を

小さな子どもは重症化しやすいので、
生後2か月からの5種混合ワクチン接種が
有効です。

「手洗い」「咳エチケット」「換気」など基本的な感染対策を心がけましょう

横浜市感染症情報センター 5月15日発行

横浜メディカル
ダッシュボード